

身近なパワースポットハイキング Part 17 『東小平高窓の里界隈を巡る』

令和2年9月23(水)
A.M. 10:00~

行先・場所
東小平里山
農村ミュージアム「かね本蔵」
古民家カフェ「大門家」

案内人
NPO法人ネットワーク
ひがしこだいら
今井 玲子
NPO法人本庄ファンクラブ
倉林 律雄
つきみ荘
金子 美穂



東小平

たかまと

高窓の里



至 小山川
(こだま千本様)

児玉の名産
なす
玉ねぎ

田んぼ

開田碑
かいでんひ

かね本蔵
(根岸家)

田んぼ

たいもんち
大門家
(うどん)

仁王門

コスモス畑

ひまわり畑

3階建ての
養蚕農家

至
岩谷堂

ふみょうじ
普明寺

至
あじさいの
小路

イ

標識の位置

ハ

ニ

斜面

標高 192 m

山頂駐車場

グランド

成身院百体観音堂
(さごえ堂)

トリム広場

バーベキュー広場

WC

至
日本神社

至
間瀬湖

身近なパワースポット
ハイキング コース
『里山散策』



東小平中山遺跡 中山廃寺木造塔跡（礎石群）



所在地 児玉町小平字中山

中山廃寺

伽藍 …… 仏堂、講堂、多宝塔

規模 …… 初層 3×3m
高さ 8m

多重塔であることが想定される

年代 …… 八世紀後半

出土した瓦の破片が武蔵国分寺
創建期にあたる八世紀後半の所
産であると考えられる

中山遺跡

縄文時代の遺構と、七世紀末の古跡
奈良時代後期から平安時代中期の
竪穴住居址28件、寺院跡が出土



開田碑

邑有二川其源一發于岩谷山一發于奈良
山下流皆至中鄉合焉邑人福島茂三郎與
根岸彌七相謀明治十二年試變私有陸田
為水田以稻秧是秋頗稼因語之一
二之人而得同志者四人矣明年更通溝
于中鄉本鄉欲開水田一區于此至十四年
復有五人之贊其舉益欲及之隣畝於是乎
十有久議受縣之許可中鄉本鄉
有水田實以福島根岸兩氏為始今茲二十
一年建石於路傍以勒其事蹟

明治二十一年十一月

陣山田中敬義撰

東郊河田謀書并篆額



本庄市の原風景 『高窓の里』

小平は文字通り、山に囲まれて平らな所が少ないのでお米がとれません。年貢米が他の地域と比べると、桁が違うほど少なかったのです。しかし山の斜面で桑は育つので、江戸時代から養蚕が盛んになりました。その他にタバコも栽培していたようです。また、東小平には高山社の根岸分教所があったり、競進社の先生も輩出されたり、といったことから高窓のついた養蚕農家が多く、今でも8軒の建物が残っています。現在は養蚕は行われていませんが、昔を偲び古き良きものを残すためにもこの地を高窓の里と呼んでいます。平成20年には彩の国景観賞を受賞しています。

真言宗豊山派

平等山宝金剛寺成身院

中興開山 陽嶽元昭 1394没

中興開基 第四代鎌倉公方足利持氏 1439没

江戸時代の成身院は、長谷寺を教相本山とし、仁和寺を法流本山とする中本寺で、僧侶を養成する常法談林でした。



消失前の本堂と庫裡

大正8年（1919）11月、境内で開かれた村の剣道大会で、打ち上げた手製の花火が本堂の藁ぶき屋根に落ちて破裂し、煙が一すじ立つと、どっと燃えあがったという。

昭和49年に庫裡を本堂に改造。昔の庫裡は文政7（1824）ごろの建築で、高窓がついています。屋根裏にはしっかりした板が張られ、障子も入っていて、蚕が飼えるようになっていました。





三仏堂とひまわり

三仏堂向拝の彫り物 龍



大正時代の成身院界隈



そば畑の向こうに成身院





さあ、出発!!

観光農業センターを出たところの
階段が一番きついです。



ここから櫛林（地名）の里山に入ります。





萩（はぎ）

こちらが
「秋の七草」
でございます。



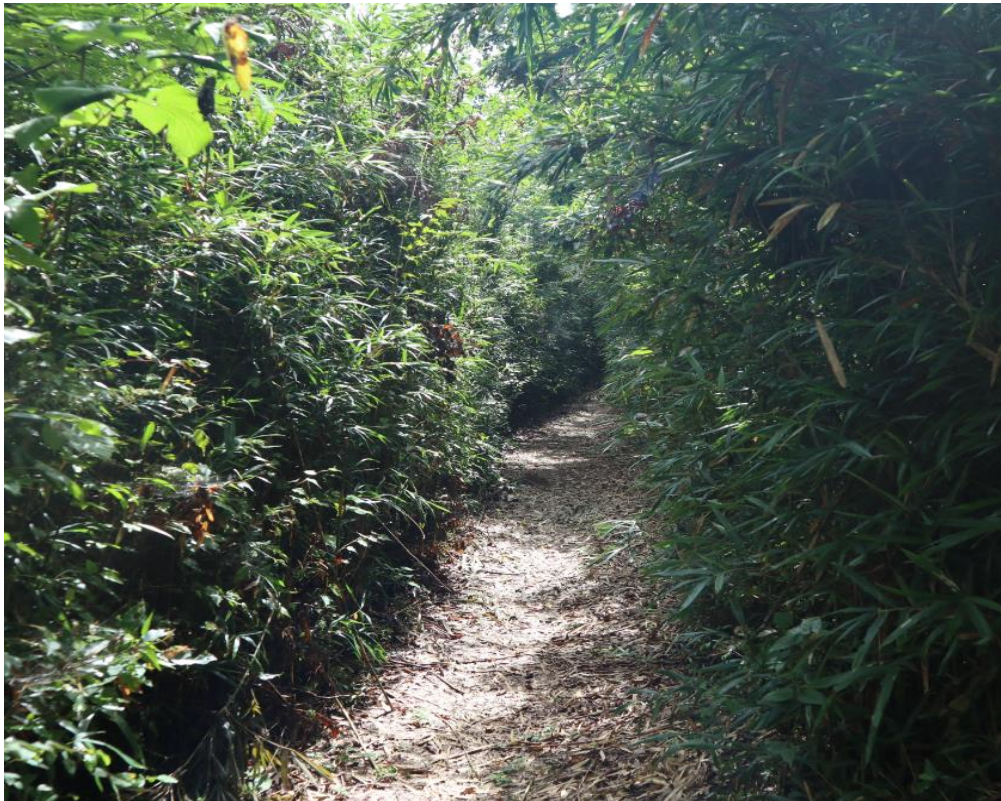
本来は黄色い花で
女郎花（おみなえし）
これは白い花なので
男郎花（おとこえし）



尾花（おばな）
すすきの別名

葛（くず）





笹のトンネル



出口付近

里山散策道に入って、
まず左に進みます。



ジヨロウグモの巣がいっぱい。
これは親子かな？



中山廃寺と竪穴式住居跡に佇み 古人の生活風景に想いを馳せる

縄文時代から人が住み着き、奈良時代には集落を形成
さらに、寺院まで建立・・・

この地にこだわる理由って・・・？

寺院を創ってしまうほどの豊かな経済基盤って・・・？

古人が闊歩したであろう山端の林中を歩いて、その時代の
気分に入ります。



里山から高窓の里を望む



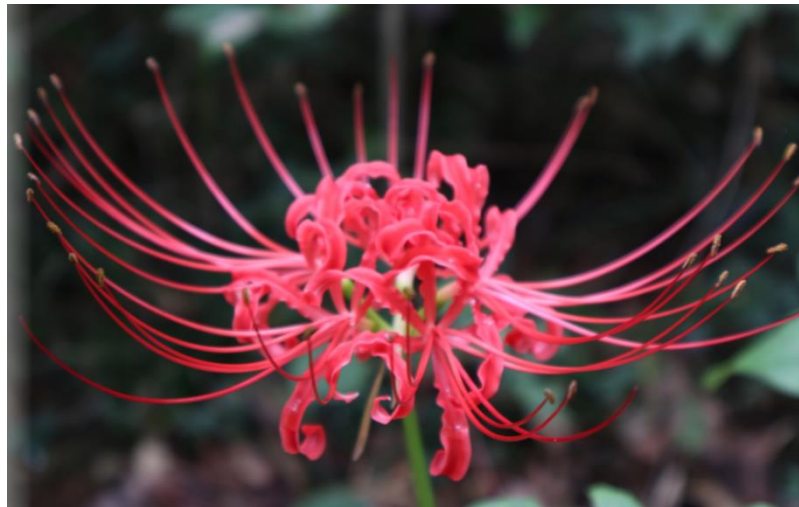


里山を降りると、そこは一面の
そば畑

ガマズミ



彼岸花



蕎麦の花（収穫は10月中旬）



開田碑の説明

昔田んぼがなかったこの地に、福島さん根岸さんの二人が立ち上がり、小平川から水を引いて田んぼをつくりはじめました。二人から一人、二人と増え五人六人と村人が協力しあって、八反の田んぼができました。それからこの地を新田（しんた）と呼んでいます。明治21年に記念の石碑を建立しました。



秋です
ね
たわわに実った稲穂



山の麓に見える家並みが
根岸地区です。
ほとんど根岸さんです。



シャッター切る時だけマスクを外しました



農村ミュージアム
『かねもと蔵』

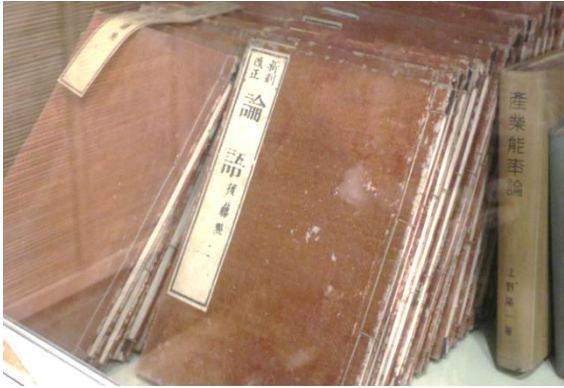




高山社根岸分教所



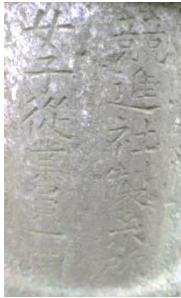
分教所の全景



秋平製糸合資会社



二代目真一郎氏が競進社を
退職したときに女子生徒た
ちから贈られた灯籠



昭和6年11月





かねもと蔵 御当主 根岸敬明さんと







古民家カフェ
手打ちうどん
『大門家』





自家製
ジンジャーエール
その他 ホット・アイス
コーヒー あります。



食後にケーキを注文された方も沢山いました

一般財団法人地域活性化センター
の移住・定住・交流推進支援事業
を活用して、令和2年7月26日
に正式にオープンしました。

おろし ￥600



とろ玉 ￥700



豚しゃぶ ￥700



つけ肉 ￥700





里山を降りて、食事と蔵の見学は半分づつに分かれました。
新型コロナウイルス対策としてですが、どちらも丁度いい
人数で、特に食事の配膳がスムーズだったと思います。

午後は、希望者を募り、さざえ堂の見学を盛り込み、
すべて終了したのは2：20。
マスクをしてのハイキングは息苦しさもありましたが、
皆様のご協力に感謝です。ケガもなく終了したこと、
本当にありがとうございました。



栲 くぬぎ



お疲れ様でした。

（散策の背景）

背後を上武山地の尾根で遮られ、それに連なる南北に伸びた2本の小尾根で三方を囲まれた東小平は、南北に約1.1km、東西の幅約200m～400mの北に開けた谷間に集落が広がる地区である。地区面積の7割から8割を占める山地は、そこここに岩肌を露わにした岩山であり、国土の7割が山岳地帯である日本の典型的な里山風景を示している。

東小平の特色は、人跡のない一般的な山里と違い、太古より連綿と人々の生活が営まれた跡が小規模ながら集積しているところである。更には、古墳や廃寺跡あるいは竪穴式住居跡といった史跡だけでなく、当時の政治や社会を偲ばせる五輪塔や廓活動、はたまた天明の浅間山噴火犠牲者を慰霊する観音堂や木食修行堂等の宗教施設や獅子舞芸能、近世の養蚕産業の盛況を思わせる高窓養蚕農家や製糸場などなど、およそ里山地帯で展開される社会・経済・文化の一切がこの小さな地区にまとまって存在しているという、独立した1つの社会・経済・文化圏を形成しているのが大きな特色である。

この地区は、7世紀より近世（明治29年）に至るまで那珂郡に属していた。北側に流れる小山川を境にして、対岸の児玉郡とは歴史的に異なる社会経済を営んできたようである。

中世においては、武蔵七党猪俣党の勢力地で、隣接した児玉荘を支配した児玉党とは交流も衝突もなかったようである。むしろ猪俣党系図には表れない一連の小字名や「那珂郡中沢郷小平村」と表記された古文書にあるように、猪俣党にも組しない独立独歩の政治・経済・社会を歩んできたものと推測される。

そんな独立自尊性に富んだ里山を探索して、往時の営みに思いを馳せられたらと計画したものである。

「児玉の民話と伝説」

著者 田島三郎

全三巻

全153話、うち13話が東小平の話

- ① 石棒のお地蔵さま
- ② ほてい堂
- ③ 小平の道しるべ
- ④ 雷電様
- ⑤ 岩谷洞のはなし
- ⑥ 小平六ものがたり
- ⑦ 間瀬湖のはなし
- ⑧ 尊の小便
- ⑨ 「こっち向いて」の山神様
- ⑩ 石神様
- ⑪ 小平の獅子舞
- ⑫ 木食浄厳
- ⑬ 児玉三十三霊場札所の由来

